

経済・金融 フラッシュ

【韓国GDP】

やっと底入れも、油断は禁物

経済研究部 研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1824 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

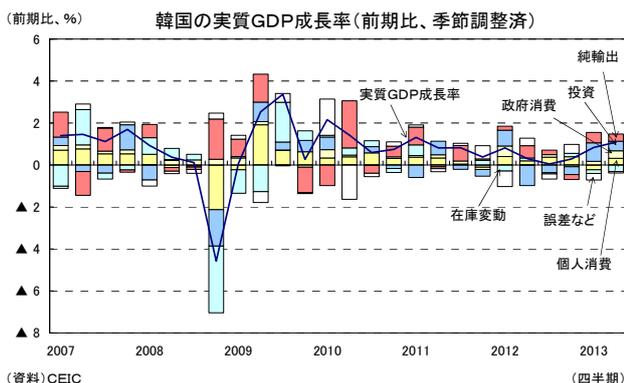
1. 現状: やっと底入れ

韓国銀行（中央銀行）は7月25日、2013年4-6月期の実質国内総生産（GDP）を公表した。前期比（季節調整済）で+1.1%となり、前期の1-3月期（同+0.8%）より加速（図表1）した。前年同月比でも+2.3%（前期：同+1.5%）と、前期より改善している（図表2）。前年同期比では、2012年4-6月期以来の2%台を記録、回復力は弱いながらも底入れしたと言える¹。

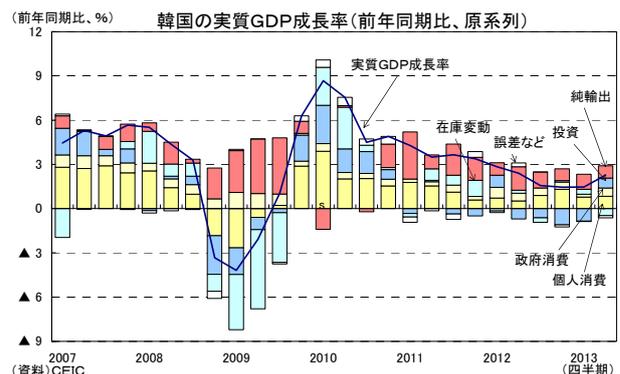
需要項目別のGDP成長率を前期比ベースで見ると、消費が個人消費、政府消費ともに前期より加速した。個人消費は前期比+0.6%（前期：同▲0.4%）、政府消費は前期比+2.4%（前期：同1.2%）、合計で前期比+1.0%（前期：同▲0.1%）であった。一方、投資は、建設投資が前期比+3.3%（前期：同▲4.1%）、設備投資が前期比▲0.7%（前期：同+2.6%）、合計で前期比+1.9%（前期：同3.8%）といずれもやや減速した。

純輸出では、輸出が前期比+1.5%（前期：同+3.0%）、輸入が前期比+1.0%（前期：同+2.5%）となり、いずれも減速した。成長への寄与度は+0.8%ポイント（前期：同+1.0%ポイント）とほぼ横ばいであった。

（図表1）



（図表2）



供給項目別では、主要産業である製造業が前期比+0.8%と前期（同+1.3%）から減速、建設業も前期比+1.5%（前期：4.0%）と減速したものの、第一次産業が前期比+2.0%（前期：同▲4.4%）、電気・ガス・水道業が前期比▲1.4%（前期：▲5.6%）、サービス業が前期比+0.9%（前期：同+0.7%）と改善しており、結果としてGDP全体の伸び率も加速した。

¹ 韓国銀行は7月11日に今年の成長率見通しを公表し、2013年通年の成長率を+2.8%（4月時点の2.6%より上方修正）と予想した。今年前半で前年同期比+1.9%、後半で同+3.7%の成長と予想しており、前半の成長率予想は今回発表された実績と一致している。

2. 今後も油断はできない

今期のGDPを見ると、前期比では項目ごとに一進一退となった。ただし、前年同期比では需要項目も供給項目も全体的に改善が見られ、回復に勢いは無いが底入れしたものと見られる。

今後については、消費に関していえば、中小企業の育成や雇用拡大など「経済民主化」を掲げる朴政権が、今年4月に不動産市場の活性化策を打ち出し、大型補正予算を編成しており、国民からの評価も悪くない。消費者景況感も堅調に推移しているため、底堅さが期待できる。

一方、輸出については、油断は禁物だろう。

月次の輸出動向は底打ちの兆しが見られるが、明確に上向いたとは言い難い(図表3)。GDP統計でも、前期比での輸出伸び率が減速しており、回復力に乏しい。年初に輸出の下押し材料となっていたドル安ウォン高は一服し、米国向けの輸出など回復傾向にある(図表4)など、プラスの材料も見られるが、以下に述べるように不安材料は今なお多い。

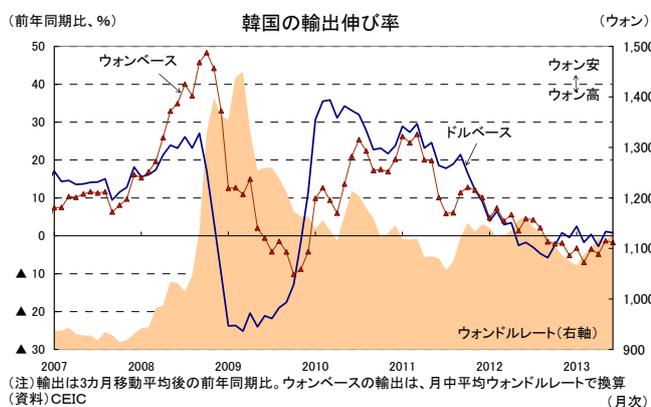
1つ目が主要な輸出相手国である中国で需要が低迷している点である。2つ目はドルに対するウォン高は解消したものの、円に対してはウォン高となっており、輸出競争力の低下が懸念される点である。これらは引き続き輸出の下押し圧力になるだろう。

また、3つ目にリスク要因として、競争力の点でも優勢と見られていた半導体関連の産業でも収益力が低迷する可能性を挙げたい。サムスン電子の4-6月期の営業利益を見ると、過去と比較すれば最高益を記録したものの、市場の予想は下回った。主要商品であるスマートフォンの普及率が高まったほか、新興国市場では他社との競争も激化しており、先行きの業績に不透明感が出てきた。株式時価総額で約18%にのぼる同社の業績が伸び悩めば、韓国経済に与える影響が大きいため注意が必要だろう。

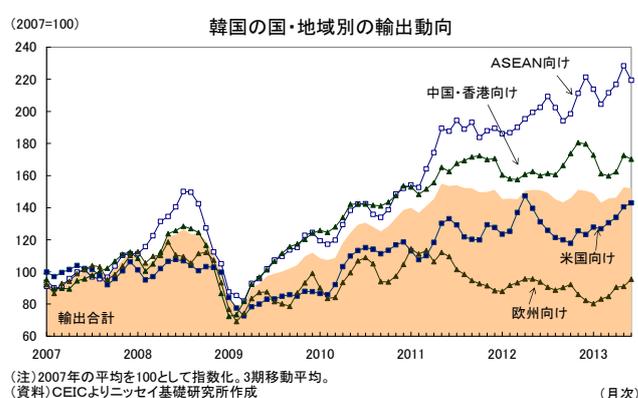
その他、輸出企業に限らず、大企業では朴政権の「経済民主化」政策が負担となっている点にも注意したい。政府も財閥への配慮を示し、抜本的な財閥規制には踏み切っていないが、公正取引法などを改正、積極的な投資は行いにくくなっている。国民には格差是正の動きが歓迎されているが、輸出産業を中心とした大企業の業績が回復しなければ、経済活性化は見込みにくいため、朴政権としては舵取りが難しい状況でもある。

足もと堅調に回復している消費だが、輸出や企業業績の回復がなければ息切れする可能性もある。成長率が底入れしたとはいえ、しばらく油断ができない状況が続くそう。

(図表3)



(図表4)



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。